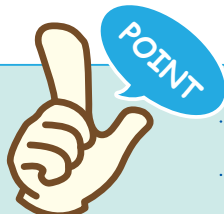


一流店が選んだユニフォームレンタル。  
真っ白な白衣を着て、お客さまに仕事を“魅せる”



赤い壁に真っ白な白衣が映える。

お客さまの前で調理するカウンターは、職人にとって舞台上がるようなものだという。



POINT

●店主の心構え

白衣を着て、前掛けをキチッと締めて。お客さまとの真剣勝負に向かう覚悟でカウンターに立っている。

●導入のきっかけ

店舗数が増え、白衣の衛生管理が難しくなったため、定期的にクリーニングしてくれるユニフォームレンタルの導入を決めた。

●使ってみた感想

サニクリーンとの付き合いは30年以上。信頼できるから「やま中」全店舗で使っている。



「鮮魚を扱っているのですから衛生的であることが、なにより重要です。衛生管理の点でレンタルにして正解でした」と店主の山中さん。

昭和47年創業、全国の食通を唸らせる名店が福岡にある。鮨割烹「やま中」だ。九州を代表する一流店として、あの豪華クルーズトレイン「ななつ星」にも食事を提供している。本店はとももスタイリッシュ。コンクリート打ちっ放しの外壁に大きくガラスが配された佇まいは、まるで美術館のよう。店内1階のカウンターには、見事な檜の一枚板が使われ、その向こうに白衣を着た職人が立つ。赤い壁と、和紙を用いた雲のような照明から放たれる柔らかな光が、職人の真っ白な白衣を、磨き抜かれた技を、際立たせる。「カウンターはお客さまの目の前で仕事するでしょ。ごまかしはきかない。ただ調理するだけじゃなくて、仕事を

定期的なクリーニングが白衣を清潔に保つ。  
全店舗のユニフォーム管理を任せられるから安心

魅せなくちゃ。清潔感のある真っ白な白衣が粹でしょ」と、店主の山中啄生さんは話す。カウンターは職人にとって舞台みたいなものだ。創業当時は職人も少なく、各々が白衣をクリーニングに出していたという山中さん。ところが、抱える職人の人数が増え、店舗数が増えてくると、従業員すべての白衣にまで目が行き届かなくなってくる。「全従業員がきちんと衛生的な白衣を着ているのかどうか、私が把握するのは不可能ですよ。飲食店なのだから、衛生面に気を遣うのは当たり前のことです。そこで定期的にクリーニングしてくれるユニフォームレンタルを導入することに決めたのです」。

**職人の勝負服はピシッとした白衣。  
白衣を着た瞬間、自然と気持ちが引き締まる**



白衣は仕事のしやすい七分袖。  
内ボタンがきちんと合わせを留める。  
山中さんは素肌の上に粋に着こなす。

**レストラン**

**【やま中】**

<http://www.sushi-yamanaka.jp/>

福岡県福岡市中央区渡辺通 2-8-8

TEL.092-731-7771

営業時間 / 11 : 30 ~ 22 : 00

定休日 / 日曜日、年末年始、お盆期間



厳選された旬の食材に、職人が丁寧な仕事を施す「やま中」の料理。酢飯の調合しかり、魚のメ方しかり、その一つひとつの仕事はどれも「やま中」流だ。「料理は型にはまったら面白くない。多様化されている時代ですから、いろんな味の組み合わせを探求していければいいんです。ここでしか食べられない「博多前」のすしを提供しています」と、山中さんはこだわりを教えてくださいました。こだわりの料理だけでなく、盛り付けに使う器、店に飾られている花々やモダンなおブジエにも、「偽物ではダメです。本物でなければ。本当に良い物は毎日見ている飽きないんです。そういった空間の演出も、一流のおもてなしには欠かせない」と考えて

います。山中さんが取材を受けている間、カウンターで黙々と仕事する職人の副島さんにも話を聞いた。「カウンターはお客さまとの距離が近いので、やはり緊張感があります。でも、きれいな白衣を着た瞬間、自然と気持ちが引き締まるんです。自分は「やま中」の職人である」という意識が湧き上がってきて、はじめてお客さまの前に立てるんですよ。ちょっとした儀式のような感じだと副島さんは話す。山中さんにとっても、白衣はプライベートと仕事を切り替える重要なアイテムだという。「白衣を着て、前掛けをキチッと締めてね。そして、お客さまとの真剣勝負に向かう。毎日それくらいの覚悟でカウンターに立って

るんですよ。意匠を凝らした空間で一流のおもてなしをする、全国随一の名店が選ぶのは、やはり真っ白な白衣だったのである。そんな「やま中」とサニクリーンとの付き合いは実に30年以上にも及ぶ。「白衣が古くなれば新しいものに換えてくれるし、汚れもきちんと落としてくれる。信頼できるから全店舗で使っているんです」と山中さん。サニクリーンのユニフォームレンタルもまた、一流店に選ばれたと言えるだろう。だからこそ、その期待に応えていかなくてはならない。



本物にこだわり、美しくデザインされた店内。その世界観に圧倒される。